

Asia Leadership Fellow Program

2018 PROGRAM REPORT

Imagining Plural Asias: How Can We Enrich Interrelationships across Borders?

International House of Japan
Japan Foundation

Imagining Plural Asias: How Can We Enrich Interrelationships across Borders?

Published by

International House of Japan and Japan Foundation

Copyright © 2019

International House of Japan

5-11-16 Roppongi, Minato-ku,

Tokyo 106-0032, Japan

Telephone: +81-3-3470-3211

Fax: +81-3-3470-3170

Email: alfp_info@i-house.or.jp

URL: alfpnetwork.net

Contents

ALFP 2018 Fellows (フェロー・プロフィール) -----	4
ALFP 2018 Schedule (スケジュール) -----	7
ALFP 2018 Program Overview (プログラム概要) -----	9

サムラート・チョードリー (インド)

作家 / フリージャーナリスト



作家兼ジャーナリスト。ニューデリー、ムンバイ、ベンガルールの主要紙の編集者を経て、現在はチベット、インド北東部、バングラデシュを流れるブラマプトラ川についての本を執筆している。インド、バングラデシュ、中国の国境が接するこの複雑で多様な地域と、インド全体の政治、歴史、文化に関心がある。短編、エッセイ、グラフィックノベルも出版しており、一部はドイツ語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語に翻訳されている。小説『The Urban Jungle』（ペンギンブックス、2011年）は、マン・アジア文学賞にノミネートされた。学生時代に電気工学を専攻していたことから、テクノロジーとそれが社会に与える影響にも注目。シロンとコルカタを拠点に活動している。

アジズ・アリ・ダード (パキスタン)

アガ・カーン地域支援プログラム (AKRSP) 知識管理・コミュニケーションスペシャリスト



パキスタン北部のギルギット・バルティスタン州出身。現地 NGO 「アガ・カーン地域支援プログラム (AKRSP)」での活動を通じて、社会経済発展が同州をはじめ政治的に取り残されがちな地域にもたらすインパクトや、グローバル化が文化、伝統、ガバナンス、アイデンティティに与える影響について、調査を行っている。地域を代表するライターでもあり、国内の主要英字紙「The News」のコラムニストも務める。哲学、文化、政治、社会問題など広範にわたる記事を書き、国内外に研究成果を発表することで、ギルギット・バルティスタン州の人々の声を代弁したいと考えている。ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス (LSE) で修士号を取得。最近では、中国・パキスタン経済回廊 (CPEC) が同州にもたらす好機と課題について調査し、論文にまとめている。

アスミン・フランシスカ (インドネシア)

アトマ・ジャヤ・カソリック大学法学部 上級講師



アトマ・ジャヤ・カソリック大学法学部で上級講師として教鞭をとるかたわら、リサーチ&コミュニティサービス研究所の所長を務める。人権や薬物政策を専門とし、特に薬物法と人権、健康と子ども、民主主義と過去の人権侵害に着目し研究を行っている。米国のノースウェスタン大学で修士号、ドイツのユストゥス・リービヒ大学ギーセンで博士号を取得。国際的な学術書やジャーナルのほか、国内外のメディアに向けて人権、死刑制度廃止、法の支配、薬物法に関するエッセイを発信している。「薬物政策改革のためのインドネシア連合 (Indonesian Coalition for Drug Policy Reform)」のコーディネーターとしても活動しており、薬物依存症の解決策を探るとともに、健康の権利を推進する。人権問題の解決に向けたアジア各国の取り組みからも学びたいと考えている。

リディア・ルボン (マレーシア)

ドキュメンタリー映像作家・プロデューサー (フリーランス)



ドキュメンタリー映像作家としてアジアで14年にわたって活動し、ベスト・ドキュメンタリー賞などさまざまな映画賞を受賞。マレーシア・ドキュメンタリー協会の事務局長も務める。エグゼクティブ・プロデューサーとして関わった近作『スマトラサイの住む森へ』は、マレーシアの野生動物ドキュメンタリーとして初めて専門チャンネルのナショナルジオグラフィック ワイルドで放映された。ディスカバリーチャンネル、ナショナルジオグラフィック、アルジャジーラ・イングリッシュなど国際的なテレビネットワークとも協働している。先住民族イバン族とアメリカ人を両親に持ち、毎年多くの時間をボルネオ島で過ごしてきた。野生動物や環境の保護に強い関心があり、自らの作品を通じて社会的責任に対する人々の意識向上に寄与したいと考えている。

アロンゴット・マイドゥアン (タイ)

科学技術教育振興研究所 学術担当 / ジュットプラカーイ (Judprakai) 紙 芸術文化ジャーナリスト



タイ教育省科学技術教育振興研究所の学術担当として、国の数学教育に関するカリキュラム、政策、教科書の開発、教員研修、国内および国際調査などに広く携わる。その一方で映画批評家としても活動しており、2004年から「kalapapruek」のペンネームでアジアを中心とした世界の映画作品や国際共同制作について、さまざまなメディアに論評を寄稿、受賞歴もある。カンヌ、ベルリン、ヴェネツィア、ロッテルダム、ロンドン、香港、シンガポールなど代表的な映画祭を訪れており、タイ国際演劇評論家協会では、国内で上演される舞台作品から秀作を選ぶ永久審査員も務める。文学、美術展、クラシック音楽、演劇に関するレビューも手掛けるなど、幅広い分野で活躍している。

澤西 三貴子 (日本)

国連民主主義基金 (UNDEF) 次長



ニューヨークの国連本部において、草の根レベルの民主主義を支援する目的で2005年に設立された「民主主義基金」(UNDEF)の次長を務める。アジア各国の市民社会団体と連携し、弱者をはじめとした市民の声が意思決定プロセスに反映されるよう、資金提供を通じて現地の市民社会強化のための支援をしている。UNDEF以外にも、国連のさまざまな専門機関や開発プログラムにおいて、平和と開発、紛争予防と復興、グローバルヘルス(HIVや結核等の感染症対策)、科学技術(核技術の平和利用)など多岐にわたる国際的課題に携わってきた実績を持つ。女性のエンパワーメント、家庭と職場における男女共同参画の推進、途上国の教育支援に関連するプロジェクトにも関わる。国連職員となる以前は、文部省や文化庁、国際協力銀行に勤務していた。

孫冬 スン・ドン (中国)

詩人 / 南京財経大学国際協力・交流室 副室長・教授



南京財経大学で英文学の教授を務める。南京大学にて博士号(英文学)を取得後、カナダのマックマスター大学でポスドクフェローとして研究に従事。詩や演劇の評論家、詩人としても知られ、モノグラフや詩集を出版しているほか、ジャーナルや新聞での詩や論文の発表、詩に関連した書籍の翻訳・編集にも携わった実績を持つ。これまでに孫氏の詩は、英語、トルコ語、ヒンディー語、フランス語、ルーマニア語にも翻訳されている。現在の南京財経大学国際協力・交流室、および前職のニューヨーク州立大学商務孔子学院の中国人ディレクターとしての仕事を通じて異文化交流の大切さを強く感じ、海外の教育・文化機関との連携も行っている。

シロット・ウオン (カンボジア)

SeeChange International Cambodia キャリア・アドバイザー



職業訓練と意識改革を通じた若者のエンパワーメントを目指す NGO、SeeChange International Cambodia でキャリア・アドバイザーを務める。職業訓練所では、若者が各々の適性に合った仕事に就けるよう、キャリアアップに向けた学びの機会を提供したり、パートナー組織に紹介したりしている。その一方で、コンポントム州カシューナッツ協会のゼネラルマネージャーとして、州商業局とも連携しながら、地元農家のための技術研修や農産物の販路開拓に力を注ぐ。また、2006年から Teachers Across Borders Australia の通訳兼コーディネーターとして、教員研修の企画や公的機関の管理職を対象としたワークショップの運営に携わっている。コミュニティの住民、さらには周辺国の人々との相互理解を促進することの重要性を強く訴える。

※所属・肩書はプログラム参加当時のものです。

ALFP 2018 Schedule

- 9月10日 オリエンテーション／歓迎レセプション
- 9月11日 イントロ・セッション
- 9月12日 カントリーレポート1：サムラート・チョードリー、シロット・ウオン
カントリーレポート2：スン・ドン、アスミン・フランシスカ、アロンゴット・マイドゥアン
カントリーレポート3：アジズ・アリ・ダード、リディア・ルボン、澤西三貴子
- 9月14日 ディスカッション・ペーパー発表会議
- 9月18日 田辺明生（東京大学教授）南アジア・コアセミナー「グローバル化するインドとアジアにおける構造変容：持続可能、包括的、平和的な開発」
フィールド・トリップに向けての準備セッション①
- 9月19日 阿古智子（東京大学准教授）北東アジア・コアセミナー「負の歴史の記憶と忘却」
- 9月20日 フィールド・トリップに向けての準備セッション②
日下渉（名古屋大学准教授）東南アジア・コアセミナー「アジアのデモクラシーが直面する問題：ポピュリズムと道徳政治の台頭」
- 9月21日 ドキュメンタリー『スマトラサイの住む森へ』観賞およびQ&Aセッション
- 9月25～29日 東北フィールド・トリップ
- 10月2日 小熊英二（慶應義塾大学教授）「安定と失望：2010年代の日本政治における『3：2：5』の構図」
- 10月3日 NHK 訪問
- 10月5日 映画『Remittance』観賞
- 10月6～13日 個人活動期間
- 10月14日 クンダ・ディクシット（Nepali Times 紙 編集者・発行人／2006年度ALFPフェロー）、サバ・ナクヴィ（フリージャーナリスト／2013年度ALFPフェロー）、コン・リッディ（バンコクポスト紙 編集者／2010年度ALFPフェロー）によるALFP講演会シリーズ第1回「アジアのジャーナリズム～第一線で闘うジャーナリストに聞く～」およびアジア太平洋地域のリーダーシップ・プログラム・フェローとのディスカッション
- 10月15日 清水寛二（能楽師）日本の伝統芸能およびアジア諸国のアーティストとの協働に関するセミナー、鏡仙会訪問
- 10月16日 社会福祉法人藤雪会訪問および又木京子理事長からのお話
- 10月17日 岡原功祐（写真家）「分野をまたぐドキュメンタリープロジェクト」

- 10月19日 マリオ・ロペズ（京都大学准教授） 「多様なアジアを描く～持続的・包括的社会を築くには～」
- 10月23～24日 リトリート合宿 in 清里
- 10月30日 アジア・ソサエティとのアジア・パシフィック・ヤング・リーダーズ・プログラム（APYLP）ジョイント・セッション参加
- 10月31日 公開フォーラム
- 11月2日 評価セッション

2018 Program Overview

ディスカッション・ペーパー発表会議

プログラムの始めには、フェローがそれぞれの関心テーマや出身国の状況について発表し、日本の有識者と議論を交わすセッションが都内で開催されました。2018年度のALFPのテーマである「Imagining Plural Asias: How Can We Enrich Interrelationships across Borders?」に基づいて議論を交わしました。



コメンテーターおよびモデレーター：

- 阿古智子（東京大学大学院総合文化研究科 准教授）
- 今田克司（日本NPOセンター 副代表理事 / 2013年度ALFPフェロー）
- 大橋正明（聖心女子大学 教授 / 特定非営利活動法人国際協力NGOセンター 理事 / 1999年度ALFPフェロー）
- 小川玲子（千葉大学法政経学部 准教授）
- 水野孝昭（神田外語大学 教授）

コアセミナー

プログラム2週目には、北東、東南、南アジアのいずれかの地域に焦点をあてた、3つのコアセミナーが行われ、それぞれの地域が抱える課題を中心に、今後のアジアについて大局的見地から議論を重ねました。

－ 9月18日 田辺明生（東京大学教授）

南アジア・コアセミナー「グローバル化するインドとアジアにおける構造変容：持続可能、包括的、平和的な開発」



－ 9月19日 阿古智子（東京大学准教授）

北東アジア・コアセミナー「負の歴史の記憶と忘却」



－ 9月20日 日下渉（名古屋大学准教授）

東南アジア・コアセミナー「アジアのデモクラシーが直面する問題：ポピュリズムと道徳政治の台頭」



セミナー

セミナーでは、学界やNPO・NGOなどからお招きした知識人や専門家から以下のテーマでお話いただき、その後、フェローとの間で活発な議論が交わされました。

- 10月2日 小熊英二（慶應義塾大学教授）
「安定と失望：2010年代の日本政治における『3：2：5』の構図」



- 10月14日 クンダ・ディクシット（Nepali Times 紙 編集者・発行人 / 2006年度 ALFP フェロー）、サバ・ナクヴィ（フリージャーナリスト / 2013年度 ALFP フェロー）、コン・リッディ（バンコクポスト紙 編集者 / 2010年度 ALFP フェロー）「アジアのジャーナリズム～第一線で闘うジャーナリストに聞く～」 およびアジア太平洋地域のリーダーシップ・プログラム・フェローとのディスカッション



- 10月15日 清水寛二（能楽師）
鏡仙会にて日本の伝統芸能およびアジア諸国のアーティストとの協働に関するセミナー



- 10月17日 岡原功祐 (写真家)
「分野をまたぐドキュメンタリープロジェクト」



- 10月19日 マリオ・ロペズ (京都大学准教授)
「多様なアジアを描く～持続的・包括的社會を築くには～」



その他の訪問およびセッション

- 10月3日 NHK 訪問
シニア・プロデューサーの方にお話を伺った後、社内とスタジオの見学をさせていただきました。



- 10月16日 社会福祉法人藤雪会訪問

施設を見学させていただき、又木京子理事長からお話を伺いました。



東北フィールド・トリップ (9月25~29日)

フェローの共通の関心事などに基づいて企画したフィールド・トリップに出かけました。

地域活性化に向けた取り組み

- 9月25日 丑田俊輔氏（ハバタク株式会社代表取締役）による高齢化するコミュニティにおける地方創生に関するセミナー



- 9月27日 多田克彦氏（多田自然農場代表取締役社長）によるグローバル時代における日本と東北の農業に関するセミナー、および岩手県遠野市の農業関係者や起業家との懇親会



環境の持続可能性と文化の保全について

- 9月26日 マタギ文化の保存や野生動物の保護管理について、マタギとの対話および滝歩き



- 9月29日 NPO「森は海の恋人」訪問、畠山信氏（NPO 森は海の恋人副理事長）による牡蠣養殖場の案内、および包括的な環境保全への取り組みについて横山勝英氏（同理事）からのお話



震災復興に向けた活動

- 9月28日 「風の電話」に関する説明、および震災と記憶について、佐々木格氏（ベルガーディア鯨山）との対話



- 9月28日 震災の伝承に関するブリーフィング（大槌町文化交流センター）



- 9月28日 平野公三氏（大槌町長）への表敬訪問および復興に関するブリーフィング



- 9月28日 震災後の若者のエンパワメントについて、南景元氏（大槌町スクールソーシャルワーカー）との対話



- 9月28日 コミュニティ復興における郷土芸能の役割について、東梅英夫氏（臼澤鹿子踊保存会会長）および保存会メンバーとの対話、および鹿子踊見学



- 9月29日 市民参加型の映像記録の意義に関する説明（せんだいメディアテーク）



リトリート合宿 in 清里（10月23～24日）

10月23日から24日にかけて、清里にて合宿会議が行われ、10月31日の公開フォーラムに向けて今年度のALFPの総合テーマ「Imagining Plural Asias: How Can We Enrich Interrelationships across Borders?」について議論を重ねました。滞在中は自然体験プログラムにも参加しました。



公開フォーラム（10月31日）

約2カ月間にわたる日本での共同作業の集大成として、10月31日に国際文化会館にて公開フォーラムを開催しました。フォーラムではフェローたちが対話の成果を交えながら、それぞれの専門や国の現状について発表しました。第1部・2部ともに、水野孝昭氏（神田外語大学 教授）に司会をしていただき、会場からもたくさんの貴重なコメントやご質問をいただきました。



各フェローの発表演題（登壇順）は下記の通りです：

- シロット・ウオン（カンボジア）
「カンボジアと“多様なアジア”像」
- アスミン・フランシスカ（インドネシア）
「自然災害におけるインドネシアの挑戦——人権の観点から見た心の健康の保護とは」
- リディア・ルボン（マレーシア）
「ノンフィクション映画でインパクトを生み出すこと」
- アロンゴット・マイドゥアン（タイ）
「境界を超えたコミュニケーションツールとしての映像」
- 澤西三貴子（日本）
「国連による草の根民主主義の促進——グローバル、ローカル、リージョナル」
- スン・ドン（中国）
「和解への道はあるのか？——思想の対立を乗り越える」
- アジズ・アリ・ダード（パキスタン）
「国家と周縁地域の想像——ギルギット・バルティスタン州の場合」
- サムラート・チョードリー（インド）
「流動性から硬直性へ——境界、アイデンティティ、ポストモダンの危険性」